

平成 29 年 3 月 15 日

東京製綱株式会社

研究所 竹内(記)

2016 年度 活動報告概要

1. 活動概要

- 1) 第 1 回学術技術交流会(2016/6/21) 参加(守谷)
- 2) 見学会(2016/11/25) 参加(蜂須賀)
- 3) 研修報告会(2016/11/26) 不参加

2. 外部発表(2016 年度)

以下の外部発表を実施。

- 1) 石本和弘、高強度ロープ用素線の評価方法、第 80 回伸線技術分科会
- 2) 渡邊茂樹、索道用樹脂心入りロープの疲労性評価、資源素材 2016 盛岡ワイヤロープ分科会
- 3) 椎木貞則、超音波によるワイヤロープ端末部の腐食評価に関する改善検討、資源素材 2016 盛岡ワイヤロープ分科会

3. 賢材へ取組み

ロープは、非常に長い歴史を持ち、文明の発達には欠く事のできなかつた発明の一つと考えられます。古代エジプトの壁画に、ピラミッド建造にロープが使用された様子が刻まれている事は有名ですが、昨年ドイツで約 4 万年前（旧石器時代）に人類が繊維ロープを撚っていた証拠となる、マンモスの牙で作ったロープ製造工具が発掘されています。

ロープは荷重を支えるだけでなく、部品であったり保護材であったり我々の身の回りの様々な場面で使用される「賢材」と言えます。近年では、さらなる複雑化・複合化の傾向を強くしており多機能化しています。新素材活用も積極的に進めています。

弊社では、単に製品を製造販売するだけでなく TCT(Total Cable Technology)を合言葉にして、様々な材料を用いてロープを製造し、生産からフィールドにおけるサービスまでを一貫して提供し続ける企業を目指しています。

以上